海外で活躍する建設コンサルタント技術者が、独特の目線で各国を紹介するコーナーです。

OVERSEAS 海外事情

Independent State of Papua New Guinea
― パプアニューギニア独立国 ―

成長著しい若い国　～パプアニューギニアの近況～

永田 豊　NAGATA Yutaka
株式会社ニュージェック／チームマネージャー兼ラム送変電事務所長

常夏の国パプアニューギニア

パプアニューギニアは日本の南方、オーストラリアの少し手前にあるオセアニアの島国です。面積は日本の約1.2倍、人口は約890万人と日本の7％程度で過密ではありません。ほぼ赤道直下、南緯9度付近に位置する常夏の国です。そのため一年中暑く、昼間の最高気温は30℃を超えます。但し、ハイランドと呼ばれる高地は比較的涼しく快適です。乾季と雨季があるのですが、あまりはっきりしていません。

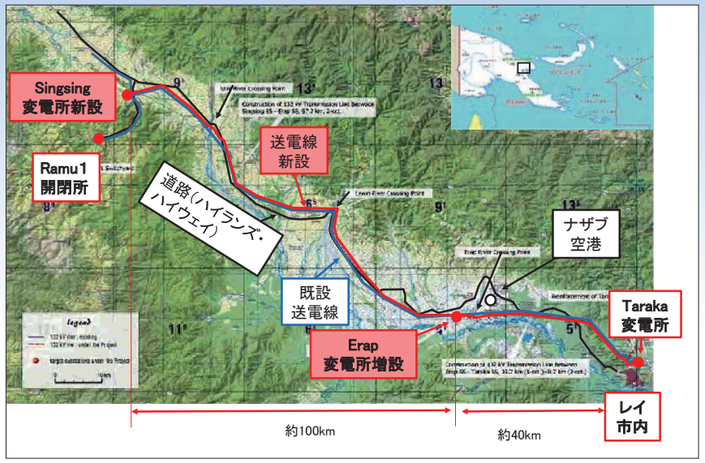
日本からは意外に近く、週1回ある直行便を使えば7時間程で着きます。原稿執筆時はコロナ禍の関係で運休しており、他国乗換えとなり時間がかかります。

人種は周辺の国々と同様のメラネシア／ポリネシア系です。大昔には手漕ぎの舟で南洋をあちこち行き来していたようです。

パプアニューギニアは比較的若い独立国家で、太平洋戦争後はオーストラリア領であったものの1975年に独立しました。独立記念日には盛大な式典が催されます。政治体制は立憲君主制ですが、英連邦王国の一つでもあり、英国女王の誕生日は国の祝日にもなっています。

当社は当地でJICA円借款事業である「ラム送電系統増強プロジェクト」のコンサルタント業務を2015年から行っています。これはパプアニューギニア第2の都市であるレイ市まで電気を送るため、水力発電所から途中数カ所に変電所を設け、高圧送電線を140km建設するものです。また、パプアニューギニアの電化率が15％以下のため、途中の地域には電気が来ていないところも多く、これらの地域の電化に協力することも目的の一つになっています。

パプアニューギニアの位置図



プロジェクト位置図

多彩な民族と言語

パプアニューギニアで特徴的なのが民族や言葉です。伝統的に「ワントーク」と呼ばれる少人数の部族に分かれて生活しており、部族ごとに言語、習慣、伝統が異なっています。言語は地域ごとに異なり、約800種類あるとも言われています。このままでは困るので、19世紀に統治したオランダが共通語として簡単なピジン語を導入し、現在広く使われています。

パプアニューギニアの人は一般にピジン語、英語、自分の所属している部族の言葉及び近くの地域の言葉2～3種類話すのが普通です。英語は共通語として、新聞やテレビ、学校教育に使われており大体の人は読み書きができますので、我々は普段英語でコミュニケーションしています。

他地域の人と結婚した家族の間では、ピジン語だったり、英語だったり、双方の親の出身地の言葉を話したりしています。ほぼ単一民族・単一言語の日本人には想像がつかない柔軟性を、パプアニューギニアの人たちは持っています。

鉱業と農業が中心の産業

主な産業は鉱業で、金・銅・石油・天然ガス等を産出し輸出しています。また、ココヤシから作るパーム油の原料となるコプラ・コーヒー・ココアなどの農業も盛んです。

パプアニューギニアは元々、都市部の貨幣経済と村落部の自給自足経済の二重構造であったのですが、現在では村落部でも子供を学校に行かせるためや、電気や色々なものを購入するため現金が必要となり、様々なものを栽培し、現金を稼いでいます。

今では、電気が来ていない田舎でさえ電波が届くところでは皆さんスマホを持っており、太陽電池で充電している状況です。従って電化への要望は非常に強く、当社が行っているプロジェクトはその一翼を担っています。

伝統衣装とお祭り

パプアニューギニアの伝統衣装

完成した変電所

送電線工事

一般的な民家

マーケット

は、男性は基本的に裸で股間を保護するサックを紐で腰に巻いている姿で、また女性は腰ミノ姿です。現代では誰もこんな姿はしておらず、男性はシャツに半ズボンサンダル履き、女性は男性と同様かムームーの上っ張り姿をしています。季節の変化がはっきりしていないので一年中同じような恰好で良く、非常に経済的です。ただ、お祭りの時の参加者は伝統的な恰好をしています。

伝統的なお祭りは各地にあります。代表的なものがハイランドのゴロカで行われるゴロカショーで、世界中から観光客が押し寄せホテルは満室になります。私も行きましたが、各地から参加者がマイクロバスやトラックで集まり、地方ごとに独特の工夫を凝らした派手な民族衣装をまとい踊り競う様は圧巻です。

ゴロカショー

日本との関わり

日本とパプアニューギニアは少なからず因縁があります。

太平洋戦争中には日本軍から攻撃を受けたため、色々な痕跡が残っています。驚いたのは、送電線工事中に基礎の穴を掘っていたら不発弾が埋まっていたことです。パプアニューギニアの特殊処理班に来てもらい撤去しましたが、これは日本の軍用機が落とした爆弾でした。

水木しげるの漫画に様々な妖怪が出てくるものがあります。彼は太平洋戦争中にパプアニューギニアで従軍し、その際に見聞きした妖怪の話が基になっています。戦後も度々この地を訪れていたようです。

また、連合艦隊司令長官の山本五十六大将は、前線視察の際にパプアニューギニアのブーゲンビル島上空にて米軍機に撃墜され戦死しています。私の叔父もブーゲンビル島の南端タロキナにて戦死しており、私の名前はその叔父の名前をもらって母が付けてくれたものです。

パプアニューギニアで仕事を始めてからその事を知り、2021年ブーゲンビル島の小高い丘に立っている日本人戦没者の慰霊碑にお参りしてきました。コロナ禍前は日本からの飛行機で慰霊団の一行と一緒になったことがあります。

マッドマン

近隣の子供たち

人々の暮らし

パプアニューギニアではハイランドに住む人々と海沿いに住む人々に大別されます。前者は概して体つきが大きく勇猛果敢な性格で、よそ者との喧嘩も日常茶飯事です。元々は獣狩りして生活していた名残です。後者は農業や漁業に従事して、概して温厚な性格で体つきも小柄であまり喧嘩はしません。しかしながら出身の異なる両者がぶつかると喧嘩になります。普段草むらを払うブッシュナイフという長い刀を持ち歩いているので、喧嘩になると、時として死者が出ることもあります。

一般の人の暮らしは多様です。都会では会社務めをしている人や商店をやっている人がいる一方で、地方では農業、漁業、林業などで生計を立てています。また各地にある大小のマーケットでは野菜や果物、魚、飲み物、タバコ（工場で作ったものだけではなくタバコの葉っぱをただ丸めただけの手製のものもあり）のバラ売り、ビトンナッツという木の実で、噛むと覚醒作用があるものなどをよく見かけます。

海岸で遊ぶ子供たち

田舎の住居は、時期によっては地上に水が溢れることから、高床式の木の骨組みの上にカヤ葺き屋根を作り、周りを竹で編んだ薄板状の壁で囲んだ家が大半です。普段そこは飼っている豚や鶏の住処になっています。常夏なので風通しが良いように開放的な作りです。トイレは住居から少し離れたところに穴を掘って、周りを囲っています。満杯になったら別の所に作ります。実にシンプルです。

このような昔ながらの生活をあまり壊したくはないのですが、一方で電気を必要としているパプアニューギニアの人々のために、これからもプロジェクトを順調に進める覚悟で、日々邁進しています。